



佐賀県

みんなで読もう オススメ本

佐賀県立図書館

ココロざしの森から

特定非営利活動法人 子どもの本屋ピピン

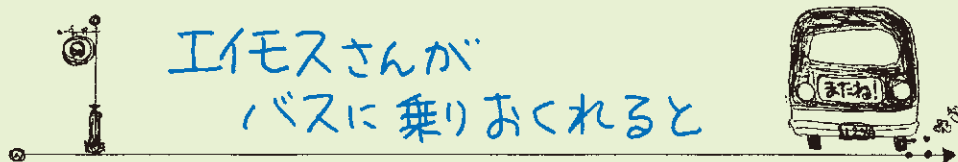
岩永 光子 代表の

オススメ本!

第13回



このコーナーでは、  
県内の著名人がおすすめする児童書の魅力を、  
直筆の推薦文とともに  
紹介します。

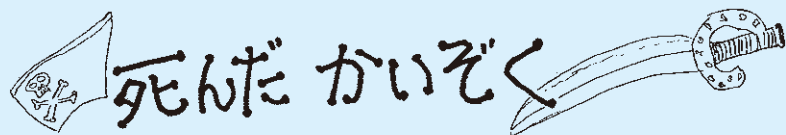


優しいのです。エイモスさんの世界は。エイモスさんが年をとっているせいも  
知れません。長く生きてきて、大切なことがよくわかっているのです。  
大事な友だちや楽しい時間が。そして友だちもエイモスさんが大好き。  
へこんで 疲れはてて、ベンチで眠ってしまったエイモスさん。元気にしたいと  
みんなは せせと 働きます。そしたら、ええ、なんと……  
おしまいページは 大切な場所です。大切な時間を過ごしている  
みんなの 後ろ姿です。私も 幸せな気持ちになります。



『エイモスさんがバスに乗りおけると』  
文／フィリップ・C・ステッド 絵／エリン・E・ステッド  
訳／青山 南 光村教育図書

エイモスさんは、明日のおでかけが楽しみでねむれません。  
つぎの日の朝、ねぼうして、いつものバスに乗りおけてし  
まいます。仕事にちこくし、楽しみにしていたけいかくもだ  
いなしに。つかれはてて、ねてしまったエイモスさんをしん  
ぱいした動物たちは……。



俺さま 海ぞく。腹を刺されて 海中へ ぶくぶく ぶくぶく  
ひとくいザメに 帽子を取られたぜ。やだと言ふけど 体は動かぬ。  
俺、死んだのか？ 歯も爪も目玉も 海の奴らに取られてく。  
そのうち気持ちが 変わてさ。欲しいと言われぬ くれでやる。  
とうとう 骨だけになつて 海の底。サベリいきの珊瑚礁を見つけたら  
そこに 俺は いるんだよ。まだ いると するならね。



『死んだかいぞく』 著者／下田 昌克 ポプラ社

「死」を見つめて、「生」を考える— 好き放題に生き、欲しいものを  
すべて手に入れてきた海賊が殺され、海に投げ出されるところから、  
この絵本は始まります。海の生き物たちが、海賊から宝石や服、  
爪や目をとっていくと、海賊の心に変化が生まれます。死ぬって  
何？ 生きるって何？ と親子で話してほしい、そんな絵本です。



わっ！ 目デカっ。額のそれ、つむじ？ めちゃキュッ。  
体の模様もイケてる!!  
ガン見してたら、見られた！ 目が合った！  
「うっ 悪気はなくて... えーと すてきだったから。  
気分 悪くないで。おねがい」  
あっ、古べろん。もしかして、もしかして、気持ち通味!?

『みたらみられた』  
作／たけがみ たえ アリス館

野で、山で、いつもの散歩道でふと  
目があった生きものたち。ときには  
気まずいこともあるけれど、目が  
あうとハッとして、ドキッとする。  
「あっ、みたらみられた」——だれ  
かと目があうと、なにかがはじまる  
予感も。そんな心躍る瞬間をのびやかに木版画で描いた絵本。



## 岩永光子さんってどんな人？

2003年に佐賀市内で、絵本や児童書を専門に扱う「子どもの  
本屋ピピン」を開業しました。それまでは佐賀西子ども劇  
場の事務局長として、児童への文化活動に長年携わってき  
ました。「ピピン」を開いてからは、布絵本作りやおはなし会  
を開催したり、「BOOKマルシェ」などのイベントに協力し、  
子どもたちと本の世界をつなぐ取り組みを行っています。



佐賀県立図書館  
「ココロざしの森」  
では、このコーナー  
で紹介した児童書  
と推薦文を展示  
しています!

